

くるめの考古資料展

むかしむかし

あるところに…

～近年の調査成果から～



期間：十月十八日(土)～十一月九日(日)

二口口八
久留米市
文化観光部文化財保護課

考古資料展関連年表

時代	遺跡の主な時代	日本・久留米の主なできごと
旧石器		狩りや漁・採集などで生活する
縄文	水洗遺跡 正福寺遺跡	土器や弓矢を使い始める 落とし穴での狩りが盛んに行われる 日本列島がほぼできあがる
弥生	秋成遺跡・久留米城外郭遺跡の甕棺 上青木北大門遺跡・市ノ上遺跡 日渡遺跡・鞍打遺跡	稲作が伝わる 倭国大乱 卑弥呼が邪馬台国を治める
古墳	西郷遺跡 夫婦木古墳群 二子塚遺跡・北山古墳	古墳が造られ始める
飛鳥	筑後国府跡（先行官衙） 筑後国府跡（第1期）	筑紫君磐井の乱（527） 仏教伝来（538） 白村江の戦い（663） 筑紫大地震（679）
奈良	筑後国府跡（第2期）・南薫西遺跡 道蔵遺跡・別当山遺跡	藤原宮に都を移す（694） 平城京に都を移す（710） 国分寺・国分尼寺建立の詔（741）
平安	筑後国府跡（第3期） 筑後国府跡（第4期）	平安京に都を移す（794）
鎌倉	二本木遺跡 善導寺創建 日出原遺跡	鎌倉幕府の成立（1192）
室町		室町幕府の成立（1338） 応仁の乱（1467） 毛利秀包久留米城主となる（1587）
江戸	久留米城外郭遺跡、櫛原・京隈侍屋敷遺跡、 鉄砲小路遺跡、久留米城下町遺跡、 善導寺境内遺跡	江戸幕府の成立（1603） 有馬豊氏、久留米藩主となる（1621） 久留米城・城下町の大改修（1624～44）
明治		明治維新（1868） 久留米市の成立・九州鉄道（現J R）久留米駅 開業(1889)
大正	京隈侍屋敷遺跡 8 次のガラス製品 鉄砲小路遺跡の陶磁器など	
昭和		太平洋戦争（1941～45）
平成		1市4町が合併（2005）

縄文時代

水洗遺跡第4次（東合川町） みずあらいいせき 縄文人のキャンプ地

昭和60年に調査を行い、縄文時代前期（約5,500～5,000年前）の土器や石器約7,000点が出土した第1次調査地の北側を調査。

今回さらに野口式と呼ばれる土器など約800点の遺物が出土。



調査風景

正福寺遺跡第10次（国分町） しょうふくじいせき 石器の製作場？縄文時代の水場を調査

平成14・15年度に縄文時代の水場を調査し、今から4,000～3,500年前のドングリ貯蔵穴や編みカゴなどが多数発見されて話題となった第7次調査地の北側の調査です。

その結果、水場がさらに北側へ広がっていたことが判明。また、磨製石斧ませいせきふが8点出土し、水場は石器の加工場でもあったことがわかりました。



調査区全景

弥生時代

上青木北大門遺跡第1次（城島町） かみあおききただいもんいせき 弥生人の装飾品？ 加工されたシカの角が出土

青木天満宮付近では、昔から工事の際に住居跡や井戸、弥生土器などが多数見つかっていましたが、未調査でした。今回、初めて発掘調査を行いました。

その結果、弥生時代の遺構は発見されなかったものの、包含層から弥生時代中期～後期の多数の土器や石包丁、シカの角などが出土しています。シカの角には細かい溝が彫りこまれているが、装飾、もしくは紐を巻き付けるために加工されたものでしょうか。

この他、平安～鎌倉時代の青木荘で行われた、宋との私的貿易によってもたらされたと考えられる白磁や青磁などの輸入陶磁器も多数出土しています。



調査区全景



発見されたシカの角

日渡遺跡第5次（国分町） ひわたしいせき 「なぜ～？」調査員も驚く鏡の出土状況

調査を開始してまもなく、遺構を検出するために表土を掘り下げた際、銅鏡が出土しました。この鏡は中国産の内行花文鏡ないこうかもんきょうとよばれるもので、文様がある面には赤色の顔料が付着しています。今回の調査では中世の溝しか見つかっていませんが、周辺には鉄器を持った弥生時代の集落もあることから、この土地が造成された際、近辺から持ち込まれたものでしょうか。



銅鏡の出土状況



調査区全景

秋成遺跡第1次（田主丸町） あきなりいせき

弥生の集落・甕棺墓群

携帯電話基地局の建設に伴い調査を行った遺跡で、弥生時代中期～後期の竪穴住居3軒や甕棺墓1基が見つかりました。竪穴住居の1軒からは鉄製の鎌やじり、ピットからは石剣の先端部が出土しています。



調査区全景

久留米城外郭遺跡第13次（城南町）

くろめじょうそとぐるわいせき

法務局の下に眠っていた甕棺墓

久留米城外郭の武家屋敷地を調査したところ、弥生時代中期の甕棺墓が5基発見され、近辺には甕棺墓群があることが判明しました。



甕棺墓調査風景

古墳時代

北山古墳群第3次（荒木町）きたやまこふんぐん

造り直された6世紀後半代の石室

盛土と石室の一部が残る8号墳を調査しました。石室は平面が丸く膨らんだ胴張りタイプと呼ばれるものです。また、現在の石室の外側にも石組みが見つかり、1度壊れた石室を小規模にして造り直されたことが判明しました。これは古墳を造営できる場所に強い規制があったため、壊れた石室を再構築して使用したと考えられます。



8号墳全景



初期石室の検出状況

西郷遺跡第1次（田主丸町）さいごういせき

溝から大量の土師器が出土

けんえいほじょうせいび
県営圃場整備事業に伴い、巨勢川と七夕川の合流点付近を調査しました。調査区の中央で検出された溝からは3世紀末～4世紀中頃の土師器が大量に出土し、付近に集落があったと考えられます。また、調査区東側の段落ち部分からはへきぎよく碧玉とまがたま土製の勾玉が出土しました。

この他、中世の溝や井戸、土壌墓も発見されています。



出土した勾玉
溝からの遺物出土状況

二子塚遺跡第5次（荒木町）ふたごづかいせき

荒木小学校校内を調査。幻の二子塚古墳は…

荒木小学校講堂の改築工事に伴い、実施した調査です。調査地付近は現在消滅している二子塚古墳という前方後円墳があったと伝えられている場所です。調査の結果、その痕跡はわかりませんでした。古墳と同時代の竪穴住居や掘立柱建物が見つかりました。古墳を造った人々が暮らしていた住居でしょうか？

その他には、室町時代の有力者の館を囲んでいたと考えられる溝も見つかっています。



調査区全景

奈良・平安時代

道蔵遺跡第18・19次（大善寺町）どうぞういせき

三瀨郡の役所？大型建物や道路を発見

第18次調査では第1次調査などで検出されていた大型建物の北限部が検出され、その北側・東側では雨落ち溝も検出されています。調査の結果、大型建物群は約50m四方の範囲に限って分布することが確定しました。

第19次調査では、大型建物など時期が前後する4棟が検出されています。



第19次調査区全景

南薫西遺跡第6次（南薫西町）なんくんにしいせき

神様の名前？墨書・刻書土器が出土

南薫小学校の校庭を調査したところ、奈良～平安時代の掘立柱建物18棟などが発見されました。土坑などからは「芋原」「大神」と記された土器が8点出土しています。

これは、高良大社のちくごのくにじんみょうちよう『筑後国神名帳』に見られる神様の名前を指すと考えられます。



墨書土器「芋原」
現地説明会風景

筑後国府跡第210次他（合川町）ちくごこくふあと

様々な発見がありました

筑後国府跡第210次調査では、筑後国が成立する以前の7世紀中頃のものと思われる大型建物跡が発見されました。筑後国は、西暦690年前後に筑紫国が筑前国と分国されて成立します。今回発見した大型建物は、建物の周囲に^{ひさし}庇が取り付く^{しめんびさし}四面庇建物と呼ばれる格式の高い建物で、周辺で発見されている同時代の建物の中でも大きく、中枢を担う建物と思われます。この建物は、日本と唐・新羅連合軍と戦った、天智2（663）年の白村江の戦い前後に造られた可能性も考えられ、筑後国のみならず、日本の歴史を考える際に、大きな成果をもたらしました。



第210次調査区全景（南上空から）

一方、第214次調査では、第2期国府の時期のものと思われる、役人の屋敷跡を発掘しました。国府には、大勢の役人達が働いていましたが、中でも最高位の役人を^{こくし}国司と言います。この国司は、都から派遣されて来る貴族で、直接来るこ



大量の土器が出土したゴミ穴

とがない天皇の代理でもありました。筑後国府では、平安時代前期の9世紀中頃～後半の国司の屋敷跡（国司館）が発見されていて、国史跡に指定されています。今回はこの史跡地の南側隣接地を調査し、国司館の南側にも役人などの屋敷と思われる施設が広がっていることをつきとめました。発掘調査では、掘立柱建物や^{きょうえん}供宴を催した^{もよお}あとの大量の土器類を廃棄したと思われるゴミ穴などが発見されました。ゴミ穴からは、^{こしき}杯・皿・椀などの食事や宴会をする時に使用する食器がほとんどで、料理を作る際に使用する^{こしき}甕や甑などはほとんど出土していません。食事をつくる場所は他にあったのでしょうか？

鎌倉・室町時代

二本木遺跡第20・21次（御井町）にほんぎいせき

第4期国庁の官人の墓地？ 有力者の館を囲む溝？

遺跡の南西端部を調査した第20次調査では、^{がきわん}瓦器碗や中国産の白磁碗を副葬した土壇墓2基が発見され、近くの市立南筑高校一带にあった第4期国庁に関連する人々の墓地と推定されています。



土壇墓の遺物出土状況

第21次調査では遺跡の北西端部を調査し、幅約3m、深さ約1mの大溝が、37m以上の長さにはわたって掘られていることがわかりました。その規模や時期から、第4期国庁に関連する有力者の館を囲む溝と考えられています。



見つかった大溝

日出原遺跡第2次（御井町）ひいでばるいせき

第4期国府廃絶後の集落？ 方形土坑を発見

第4期国府所在地のすぐ東側にあたる場所を調査し、土師器や輸入陶磁器が大量に捨てられた溝や土坑を検出しました。その中でも調査地付近に集中して分布する方形土坑が2基見つかったことが注目されます。方形土坑は階段が造り付けられ、半地下式の倉庫と考えられています。遺構は重複がないことから、13世紀代の短い期間にのみ存在した集落の遺構と考えられます。



方形土坑

調査区全景

江戸時代

櫛原侍屋敷遺跡第6・7次（櫛原町） くしわらさむらいやしきいせき

市内で2例目の天保二朱判金出土

櫛原侍屋敷は久留米城の東側に所在した武家屋敷地で、上・中級武士をはじめ、藩医・鷹匠はんい たかじょうなど約100家が暮らしていました。

第6次調査では、代々藩医を勤めた平川家の屋敷地を調査し、江戸時代後期～幕末の陶磁器などが多数出土しています。注目されるのは土坑から出土した天保二朱判金で、市内では善導寺境内遺跡に次いで2例目の出土となります。

第7次調査も藩医を勤めた安元家の屋敷地を調査し、穴蔵を発見しました。さらに、櫛原侍屋敷と通町の町屋の境となる溝の痕跡も発見されています。



天保二朱判金

第7次調査の穴蔵

京隈侍屋敷遺跡第5・7・11次（城南町・京町） きょうぐまさむらいやしきいせき

JR久留米駅地下に眠っていた武家屋敷群

京隈侍屋敷は久留米城の南西部に広がる武家屋敷地で、上・中級武士の屋敷が150軒ほど建ち並んでいました。

第5次調査は、京町第2公園の東側を調査しました。ここは久徳家（300石）及び隣接する本庄家の屋敷地にあたり、井戸や穴蔵が発見されました。

第7・11次調査はJR久留米駅の西側、九州新幹線久留米駅の建設予定地を調査しています。調査地は原家・村上家など200～300石取りの中級武士7軒分の屋敷地があったと推定される場所で、

調査の結果、屋敷境の溝や道路が発見され、当時の屋敷割りが復元できる大きな成果が得られています。



大庭家と村上家の屋敷境となる溝（第7次）

第7次調査の19世紀前半代の土坑からは、イギリスのイノック・ウッド&サンズ社が製作した西洋陶器も出土しています。



西洋陶器皿（第7次）

久留米城下町遺跡第17次（城南町） くるめじょうかまちいせき

幕末の小料理屋さん「しお屋」を発見

久留米城大手門前に広がる旧「築島町」「亀屋町」の町屋の調査です。

「築島町」側では、カマドがある土間を西側に通した幅3間（約6m）の長屋状の建物と、その奥にはトイレやゴミ穴がある裏庭があることがよくわかる状況で残されていました。出土品には7個以上の焜炉こんろや多数の食器があります。焜炉には吹きこぼれの痕が多くあることから良く使い込まれていたと見られ、さらには「文久2年」（1862）や「しおや」と墨で書かれた焜炉もあることや、幕末に勤皇派の指導者として活躍した真木和泉という人が書いた記録には「久留米城下には煮売屋が50軒ほどもある」という記録が残されていることなどを合わせて考えると、幕末から明治時代初め頃の調査地は、「しおや」という小料理屋の敷地であったと考えられます。



「文久口」「口尾屋」墨書焜炉

善導寺境内遺跡第1次～第5次（善導寺町） ぜんどうじけいだいいせき

次々と変遷するカマド群や水琴窟を発見

浄土宗大本山善導寺は鎌倉時代に創建され、約800年の歴史を持つ寺院です。現在の本堂や大庫裏など主要な建物群は、江戸時代の寺院の姿を今に伝える貴重な建造物群であることから、国の重要文化財に指定されています。ところが、大庫裏広間・書院など、境内の大半が焼失した延享5年（1748）の大火災後に再建され、既に約250年が経過した建物群は、いずれも老朽化が著しいため、平成24年までの予定で解体修理を実施し、それに伴い地下遺構の調査も行っています。

大庫裏の地下を調査した第1次調査や、その付属施設である釜屋を調査した第4次調査では、カマドが多数発見されました。一般に庫裏は僧侶の生活空間であるため、カマドや井戸、台所がある例が多いのですが、善導寺の大庫裏は別棟の釜屋を建ててそこにカマドを設置し、井戸も大庫裏の外に設けるという全国的にも例のない建物の配置がなされています。ところが、延享5年の火災以前には一般の寺院と同様に、カマドや井戸は大庫裏の内部に設けられていたことがわかりました。恐らくは火災の反省から、原因となったカマドは別棟に移し、井戸も建物群の中央に移して消火用としたのでしょうか。

広間・書院部分を調査した第5次調査では、水琴窟が見つかりました。水琴窟とは、地中に埋めた甕の中に滴る水の響きを楽しむ設備のことです。非常に状態が良く、今も風雅な音を聞くことができます。



第1次調査風景



釜屋の石組み大カマド



水琴窟音響実験風景

明治・大正・昭和時代

京隈侍屋敷遺跡第8次（城南町）

税務署勤めも大変？ 頭痛薬の瓶などが出土

第8次調査地の北隣には、明治43年（1910）税務署が置かれ、昭和20年（1945）8月、太平洋戦争の空襲による火災で焼失するまで、ここで業務が行われていました。

調査地は戦後の後片付けの際に建物の廃材などで

埋め立てられていましたが、その土の中からは税務署で使われていたと見られるインク瓶、高級陶製便器が出土しています。さらに目薬や脳神経薬の薬瓶も出土し、仕事に疲れた税務署員たちの姿が偲ばれます。



染付陶製便器



脳神経薬「健脳丸」瓶



「大学目薬」瓶

鉄砲小路遺跡第2次（蛭川町） てっぽうこうじいせき

戦前の市民生活を物語る資料が多量出土

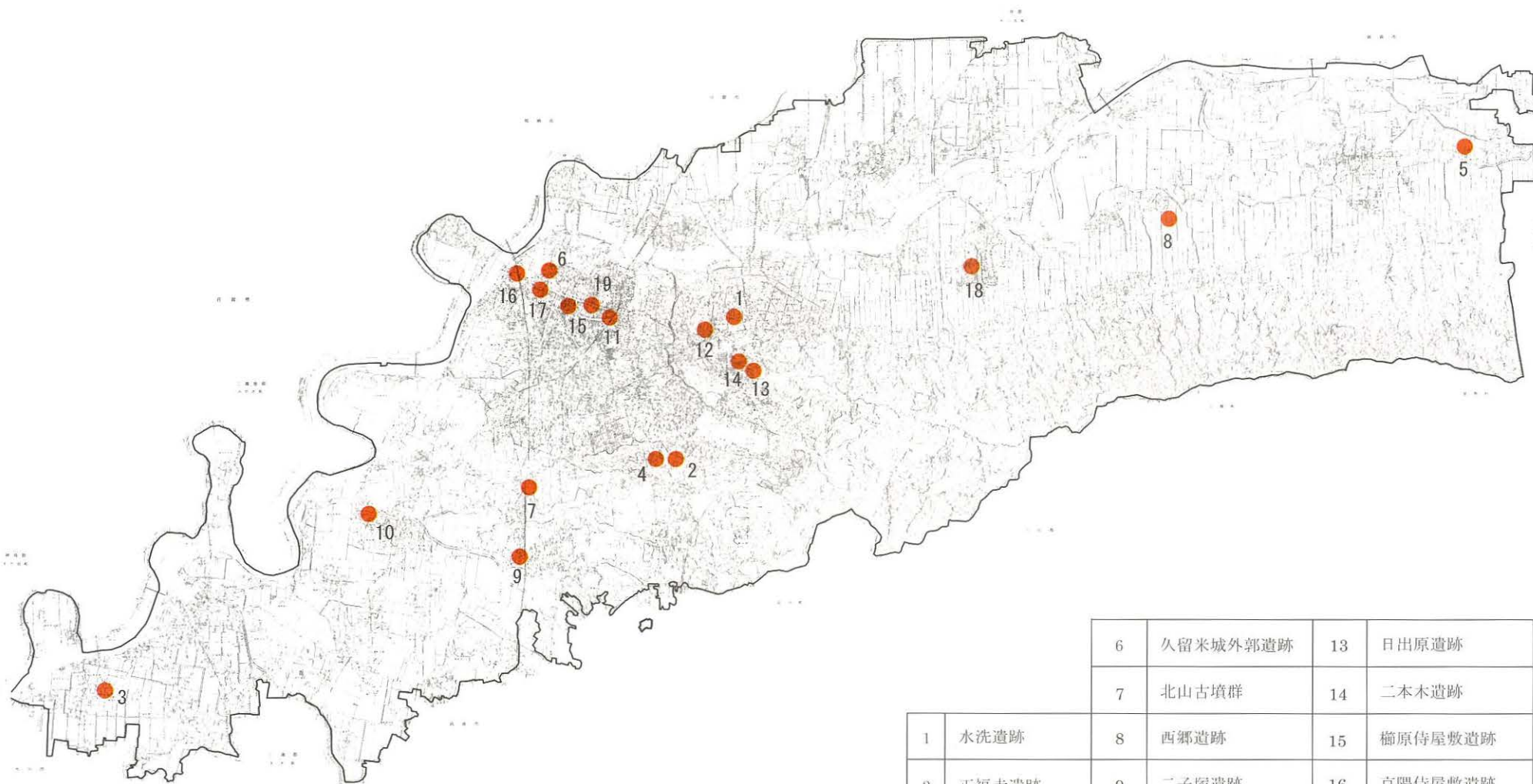
蛭川町は、江戸時代には「鉄砲小路」と呼ばれ、その名のとおり弓や銃を扱う足軽組の長屋が建ち並び、数百戸が居住していたと伝えられています。

第2次調査ではその北西隅の部分进行调查し、江戸時代の井戸や土坑が見つかりました。その他には、太平洋戦争中に有田や瀬戸などの窯場が生産統制されていたことを示す「有28」「岐929」「瀬93」など窯番号が記された陶磁器、軍旗や軍用機が描かれた飯碗、大正～昭和初期のガラス製品など昭和初期頃の市民生活を物語る出土品が多く出土しています。



昭和初期の食器や香炉

主な展示資料出土遺跡一覧



1	水洗遺跡	6	久留米城外郭遺跡	13	日出原遺跡
2	正福寺遺跡	7	北山古墳群	14	二本木遺跡
3	上青木北大門遺跡	8	西郷遺跡	15	櫛原侍屋敷遺跡
4	日渡遺跡	9	二子塚遺跡	16	京隈侍屋敷遺跡
5	秋成遺跡	10	道藏遺跡	17	久留米城下町遺跡
		11	南薫西遺跡	18	善導寺境内遺跡
		12	筑後国府跡	19	鉄砲小路遺跡